

第3回第3次大阪市食育推進連絡調整会議 会議要旨

標記会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面による意見等の聴取の実施により開催した。

1 日時 令和3年5月28日（通知送付日）から令和3年6月8日（意見等の聴取期限）

2 メンバー

【委員】 井上委員 奥田委員 川人委員 北野委員 久保委員
栗山委員 澤井委員 清水委員 杉本委員 南野委員
西本委員 浜谷委員 山本委員 横井委員 由田委員
吉田委員 吉村委員 【50音順】

【事務局】（健康局） 新谷局長 吉村首席医務監 川勝健康推進部長
片桐健康施策課長 松村生活衛生課長 内田保健所管理課長
田中健康づくり課長 貴田保健主幹
生野医務主幹 蒲生歯科口腔保健担当医務主幹

（東住吉区役所） 北山保健担当課長代理
（経済戦略局） 河野観光部観光施策担当課長 橋本産業振興部農業担当課長
（中央卸売市場） 樋口企画担当課長
（市民局） 杉谷消費者センター所長
（福祉局） 青木高齢者施策部 認知症施策担当課長
（こども青少年局） 瑞慶覧子育て支援部管理課長 今田保育施策部指導担当課長
永井保育施策部保育所運営課長
（環境局） 小松家庭ごみ減量課長
（教育委員会事務局） 三嶋保健体育担当課長 中道初等・中学校教育担当課長

3 議題

- (1) 第3次大阪市食育推進計画の進捗状況について
- (2) 令和2年度食育の取り組みについて
- (3) 令和3年度食育の取り組みについて
- (4) その他

4 委員からの主なご意見

- (1) 第3次大阪市食育推進計画の進捗状況について
 - ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、通常のような対面を中心とした取り組みが実施できず、直近の進捗状況については、やむを得ないと思われる。
 - ・食育に関して、分野別、年代別に大変多くのきめ細かい事業が展開されていることに驚いた。実

績については、令和2年度12月末現在、講座やイベントが新型コロナの影響で開催回数が減ったのは仕方がない。ただ令和元年度の回数も、平成30年度と比して、減少割合が2か月分以上あるようで気になった。

- ・新型コロナの影響で、開催回数が減っているが、妊婦教室や乳幼児健診は、特に食生活のあり方に関する啓発のため、個別での対応をしてほしい。

- ・民間施設監査において、食育計画の提出が義務づけられたことにより、より意識化ができたと思います。施設増により数値割合は横ばい状態ですが、今後も継続してみたい必要があると思います。

- ・食育推進計画がこのコロナ禍の中で順調に進むとは到底思えない。一つひとつの状況は十分納得できるが、計画を一部見直す事は出来ないのだろうか。「緊急事態」であるので、健全な食生活に大切な内容が変わってきているので見直しをしてほしい。また、手段も、例えば地域健康講座がコロナの影響で開催できないなら、オンラインを取り入れるなどできないだろうか。

(2) 令和2年度食育の取り組みについて

- ・吉本興業所属の芸人さんとのコラボや中学校における食育の取り組みと連携するなどの手法は興味深く、野菜摂取量の増加を啓発する手段の一つとしては、良かったのではないと思われる。

- ・6つの単独のテーマそれぞれの取り組み、最後には複数のテーマの取り組みと興味深く読んだ。歯と口の健康では、ミルクボーイの歯磨き漫才、「食べたらみがこう」のポスターはよく知っているが、「噛みます宣言」をしているのは知らなかった。天王寺区住みます芸人を使ったポスターは非常に親しみがあっていいと思う。

- ・栄養バランスを考えると、好き嫌いをなくし野菜を多く食べることですが、嫌いな野菜を工夫したレシピを増やしてはどうか。

(3) 令和3年度食育の取り組みについて

【コロナ禍における食育】

- ・さまざまな制限がある中で、工夫して取り組んでいると思う。時間の経過と共に、スキルが上がってくることが期待される。

- ・コロナ禍であっても、実施が必要な取組は、できることを工夫しながら実施していくことが重要です。資料4に記載された取組については、食育のさまざまな事業において事例共有を図り、今後も、各事業で工夫を行った取組が広がっていくことを期待します。

- ・新型コロナウイルス感染症に負けない食生活についてのホームページを見た。コロナ禍でも大切なことは変わらない事が改めてわかった。いい情報を発信されているので、ぜひ多くの人に見て欲しいと思う。

- ・巣ごもり需要として、リモートや動画による配信がすすんだと思うが、直接届けられない分、関心等のない層への理解は難しい現実です。

- ・イベントが開催しにくい環境なので、zoom等オンラインでの開催をもっと増やすべき。

【クックパッド公式キッチン「大阪市たべやんレシピ」による健康的なレシピの発信】

- ・コロナ禍の取り組みとしては、とても効果的な情報発信であると評価される。更なるレシピの掲載が望まれる。

- ・今の若い人はなんでもネットで調べます。調理実習などに来られた後、当日のレシピの写真等

をネットで見ることができたら、何回でも作ってもらえると思います。今後も掲載するレシピを増やして行ってほしいです。

- ・認知度が低い気がする。クックパッドを見たが、学校給食の献立の写真がおいしそうではなく、料理してみようという気持ちのならなかったため、そのあたりの改善が必要だと思う。

【食環境づくり推進事業「やさしいTABE店事業」】

- ・コロナ禍で、外食・中食事業者も厳しい状況に置かれていることから、理解を得ながら、協力店舗を増やす取り組みとしていただきたい。

- ・野菜TABE店の紹介は、大変興味深く、是非進めていただきたい取り組み。外食は概して脂っこく味付けが濃い。その中で、体に優しい料理を外食で味わえるところを紹介することはニーズがあると思う。民間への後押しにもなる。

- ・活用することでどれだけ1日にどれだけ摂らないといけないのかが目でわかるので良いなと思いました！

- ・やさしいTABE店の店舗数が少なく、認知度が低い。

お店に協力してもらうのは良いと思う。参加店舗をもっと増やしてほしい。店舗の一覧表は「梅田付近」「難波付近」などエリアごとに表示してもらえると選びやすくなる。また、野菜の量だけでなく、塩分量にもこだわって、健康志向の商品を奨励してほしい。

【食育学生ボランティア養成講座】

- ・食育のボランティア活動をしていると、まずは、自分の食生活をきちんとしなければと気を付けます。若い方のボランティアが増えたら、若い方の食生活も少しずつ良い方向に変わってくるのではないかと思います。

- ・講座で養成した学生ボランティアを、「健康に無関心」な大学生等若い世代への食育にどのように活用していくのが効果的かなど、ボランティアの活用方策についてさらに検討していくことが必要です。

- ・学生は健康よりも”一か月〇〇円の生活”として、節約かつ健康につながるレシピを提供する方が興味があると思います。

【令和3年度共有基本テーマの取り組み】

- ・「噛む」ことは子供の口腔成長にとって、高齢者の嚥下や消化機能にとっても大変重要である。また、よく噛むためには、口腔が健全であることに加え、時間的余裕も必要。青壮年層へは「味わえる余裕」も啓発すればよいと思う。食物ロスの削減に関しては、今後環境問題と相まって注目され、取り組みが広がる可能性がある。

- ・生活様式の変化に伴う食習慣の変化と口腔衛生習慣は密接に関係しており、特に幼児から小学校低学年の層には影響が大きく、新たな啓発が必要と思われる。

- ・「よく噛んで食べよう」は、私の所属する大阪市学校歯科医会でも大いに関わるところである。よく知られているのは「卑弥呼の歯はいいぜ」で子どもたちにも親しみやすくわかりやすいと思うが、色々な切り口があることが分かり、とても参考になった。今回大阪市のホームページを様々拝見させていただいたが、コロナ禍で外に出なくても家庭でも色々と情報が得られ、勉強できるのはありがたいと改めて思った。

・マスク生活の中で、口をあけていることが多く、唾液の分泌も不足ぎみとのことで、そしゃく機能も大切な課題であると思います。取り組みをすすめていきたいと思っています。

5 疑義及び回答

・「10 歯と口腔の健康づくりにおける食育の推進」の3つ目の取組（地域リハビリテーション活動支援事業等）については、実施回数が（おそらくコロナの影響で）大幅に減っているものの（163回→21回）、進捗状況が「①順調」となっていますが、評価としてこれでよいのでしょうか。

（回答）地域リハビリテーション活動支援事業の評価目標は「介護予防に資する住民主体の通いの場」が2021年度末までに高齢者人口1万人につき概ね10か所程度（市内700か所）の開催を目標としており、最終目標である700か所を達成することができました。また、コロナ禍で開催中止が相次ぐ中、一部では感染予防対策を講じて実施することができ、進捗状況として順調と評価致しました。歯科衛生士等の派遣回数、派遣人数から見ると順調と言い切れない部分もあり、今後も高齢者のフレイル予防の観点から本事業による啓発を継続したいと考えます。

・子供から大人まで野菜の種類は知っているのですが、「野菜を食べよう」のテーマ自体は分かりやすく、また食べ過ぎる心配もあまりなくてよいと思う。ただ、一日350g とはどの程度食べればいいのか、具体的に示しにくく、また量が多そうで難しい目標ではないのか？

（回答）「健康日本21（第2次）」においては、野菜の目標摂取量を1日350gとしています。厚生労働省では、「食事バランスガイド」を活用し、野菜料理1日5皿を目標に摂取すると、1日350g程度の野菜が摂取できると説明されており、地域健康講座等における講話、食生活リーフレット等の食育媒体等を通じて対象者の食生活状況を踏まえた啓発をしております。また、資料5に掲載しておりますように、食環境づくり推進事業として、市民が野菜を摂取しやすい外食環境を整備する観点から、1食で1日350gの約3分の1の野菜が充足できる「やさしいTAFE店事業」に取り組んでおります。今後も、市民にとってわかりやすく、実践しやすい内容を工夫し、啓発に努めてまいります。

・コロナ禍では、ネット、動画やSNSを使つての啓発となるのだろう。では、今後の活動の方向性はどうすべきか？元に戻す方向？

（回答）コロナ禍においては、感染拡大防止の観点から集団指導や出前講座、不特定多数の方を対象とした体験型イベントなどが中止となりました。従来の対面での講話が不可能となり、部分的にネットやSNS、動画を活用した手法に変更いたしました。結果的に、多くの方に発信できる、手軽に見ただけの等のメリットがあり、今後も対象者の特性や啓発内容を踏まえた効果的な手法となるよう検討してまいります。

・市内には、市立大学のほかにも、健康栄養分野の専門的な人材育成機関は多くあり、こうした機関にも協力を働きかけるなど、今後は、ボランティアをさらに増やしていく方策についても検討していけばどうでしょうか。

・大阪市立大学以外にも、大阪市内の大学・専門学校にも広げる可能性はありますか？

（回答）自らの健康に関心を持ち、正しい生活習慣を実行する若い世代を増やすため、本講座を受講できる機会を広げたいと考えております。